

2021/12/13

(オマケの英語教室 secret love) 書庫版



「secret love」

これはアメリカの往年の歌手 Doris Day の歌の題名です。

邦訳すると「忍ぶ恋」とか「秘めたる恋」でしょうか。

今の我が国男女の「隠れ裏実態」からすれば「古色蒼然」「時代錯誤」「完全無欠の死語」に当たりそうな言葉です。

そういう Doris Day も一昔前の人ですから、今のアメリカでは矢張り死語なのかもしれません。

では何故、そんな「古色蒼然」「時代錯誤」な言葉の話をはじめたのかと申しますと

「古の我が国ならともかく、あのアメリカにもそんな心象があったのか」

と驚いてしまったからです。

非常に意外でした。

それというのもアメリカいや西欧も含めて西洋では「ダイレクトに告白する」「明るく元気に告白する」ダメなら「あっさり引き下がる」と言った印象が極めて強かったからです。

要するに思いの丈を吐き出して、吐き出したらおしまいと言ったような「我が意主体」の印象だったのですが、そんな彼らにも「相手優位」で

「出すにさせない、押し込むに押し込みきれぬ、行き場のない揺らめく心象」

むしろ謙虚な心象がある。

「国や民族は違っても矢張り人間は同じなんだ」等とありふれたことを言うつもりは毛頭御座いませんが、何か現代の日本人に対してよりも遙かに強い「郷愁」と「親近感」を覚えたので御座います。

そういえばアメリカ映画だったかどうかは忘れましたが邦題が「郷愁」という映画もありましたっけ。

因みに自分は英訳する際、ちょっと長くなりますが

「郷愁」は like a homesick feeling(sense)

「親近感」は A feeling(sense) of being familiar (with)

或いは似て非なる物ではありますが、

「郷愁」は wanna(=want to)return there mode

「親近感」は wanna(=want to)come closer mode

を使ったりしております。

English speakers にはちょっと怪訝な顔をされたりしますが、分からない事もないような感じでした。

余談)

以上は昔気質の男の見解で、女性の見解は当然違ったものかと思われます。